

# 京都YWCA 9



# カフェ・フリーデン―平和についての学びと気軽な語らいの場ー「アイヌの人々のことを知っていますか?」

京都 YWCA100 周年を記念に実施される「釧路 YWCA 訪問の旅」。京都 YWCA 平和・環境活動委員会からも数名参加予定です。北海道といえば昨今、漫画『ゴールデン・カムイ』や、民族共生象徴空間「ウポポイ」の開館などで、先住民族であるアイヌへの関心が高まっています。ですが関西に暮らしていると、その歴史や現状などを知る機会はあまりありません。北海道に行く前にぜひアイヌの人々のことを知っておきたい、そんな思いで6月24日コロナ後初めて実施するカフェ・フリーデンのテーマに「アイヌ」を取り上げました。

スピーカーにお招きした NPO 法人多民族共生人権 教育センター理事・事務局長の文公輝(むん・ごんふい) さんは元大阪人権博物館(リバティおおさか)の学芸 員で、リバティの企画・展示に関わるところからアイ ヌの人々とのご縁がはじまったとのことでした。

蝦夷地と呼ばれた北海道では12~14世紀にかけて、現在のアイヌ民族につながる人々が暮らすようになりました。その後、進出してきた和人(大和民族)との3度にわたる戦いを経て、1869年、明治政府が開拓使を設けて北海道と命名、1871年には戸籍法でアイヌ民族も「日本臣民」に組み込まれました。しかし、その戸籍には「旧土人」と書きこまれ、従来の狩猟生活を禁止され強制的に農耕生活へ転換を迫られる、入れ墨など独自の文化を禁止されるといった差別的な同化政策がとられました。

#### 先住民族としての権利を求めて

戦後、アイヌ協会(ウタリ協会)が結成され、1980年代から民族を守る法律の制定を求める運動が展開され、1997年にアイヌ文化振興法、2019年にはようやく先住民族として位置づけたアイヌ民族支援法が制定

されました。とはいえ、国連の先住民族の権利宣言に 謳われるような自治・自決権、土地や資源の権利、差 別の禁止といった権利を獲得したとは言い難い状況で す。

2017年に道が実施した実態調査では、アイヌと自認する人は北海道で13,118人。2007年の調査より半減しています。理由のひとつとして考えられるのは、アイヌにルーツがあることを「恥ずかしい」と思わせる社会。アイヌに限らず、マイノリティに対する差別がある中、自らのマイノリティ性を隠したいという人がいるという現実です。ルーツを持つ人はもちろん道外にも暮らしていて、1988年の調査では、東京都に2700人、以前は京都にもアイヌとして情報発信する方がいたそうです。

そんな現状を伺って、参加者からは「以前北海道を 旅行した時に見た文化は素晴らしかった」「私も気づか ないところで差別をしていたかもしれない」等々、質 問や感想が活発に飛び交いました。

文字をもたなかったアイヌの言葉を文字にして夭逝した知里幸恵(1903~1922)は著書『アイヌ神謡集』の序文に、「その昔この広い北海道は、私たちの先祖の自由の天地でありました」と書きました。アイヌ民族として誇りを持ちたいという、その言葉の重みも受け止めながら北海道を訪れたいと思います。(今井貴美江)



講師の文公輝(むん・ごんふい)さん

### 日本 YWCA プログラム 日韓 YWCA カンファレンス

7月7~10日にソウルの韓国 YWCA で行われた「第11回日韓 YWCA カンファレンス」に参加しました。日本各地の YWCA からは多世代にわたる 10名が参加し、韓国 YWCA のメンバーと活動報告や意見交換の時間を持ちました。

フィールドワークで DMZ (北緯 38 度線付近の非武装 地帯) に行ったときは、地下通路に軍隊が立ち、「これより先は北の領土なので行けません」と掲示がしてありました。離散家族の方々のことを思い胸が痛むと同時に、朝鮮半島を統治したことで分断に関与した日本人としての責任を強く感じました。また、「核」を否定することなく、真実を伝えない偏りの多い報道をする日本のメディアや、加害の側面を伝えず、被害の側面だけを強調する教育を恥ずかしく思いました。

今回のカンファレンスでは「東京電力福島第一原発事故による汚染水海洋放出に反対します」という共同声明文も作成しました。韓国 YWCA では、過去に 10 万人から署名を集め、古里(コリ)原子力発電所を停止させたことがあるそうです。「私たちは微力だけど無力ではな

い」、参加者の中にはそう話をされた方もいました。私はこれらのことにとても勇気をもらいました。

私はこれからも、YWCA に関わる一人の人間として「核」を含むあらゆる暴力を否定します。そして同じ思いを持つ方々と協働し、非暴力の世界を実現させたいです。まずは最終日に話し合った今後の具体的なアクションプラン、「歴史やメディアリテラシーについての勉強会を行う」「ジェンダーの視点で平和を考えていく」「今後も日韓で協働し、多世代が参加するカンファレンスを行っていく」などを実現できるよう、微力ながら学びと活動を続けていきたいと思います。 (古川由布子)



日韓両国の参加メンバー

## シリーズ──日本語でつなぐ笑顔と笑顔 (4) **~にほんご教室「洛楽」~**

#### 日本語講師として、言葉を学ぶこと、教えること

洛楽で活動を始めて今年で3年目になり、現在中級と初級の2クラスを担当しています。日本語や教育に全く縁のなかった自分が、日本語を教えるに至ったきっかけは、世界の言語と文化の多様性に対する興味からです。「教える」を禁句とする日本語教育関係者もいるようですが、あえて使います。

仕事の関係や自分の楽しみで英語や中国語など複数の 言葉を学ぶうちに、言語の多様性とその背景にある文化 に興味を持つようになりました。特に中国語と日本語の 構造の類似性や違いが面白く、日本語そのものをもっと 勉強したいと日本語教育を学び始めました。今も英語や 中国語の講座を受講していますが、講座の授業方法を自 分の授業の参考にすることが目的のひとつになっていま す。これらの言語は日本語を教えるうえで媒介語として 大いに役立っています。日本語教育の基本は直接法なの で、媒介語使用は邪道かもしれませんが、文法の微妙な 違いを学習者の母語との対比で説明するとよく理解して





京都YWCAにほんご教室洛楽

もらえます。初級学習者とのコミュニケーションが深まるという利点もあります。また文化的背景の違いで理解し難い表現があることも、自分の語学学習から経験しており、逆の立場でどのように教えるべきか悩むことも度々です。悩みつつ、学習者とお互いの言語と文化の違いを理解しあうのが楽しみのひとつでもあります。

洛楽に入った頃、ミーティングでテキストについて議論した時に、あるメンバーが言った言葉「テキストを教えるのではありません。日本語を教えるのです」が強く印象に残っています。自分はまだテキストに沿って教え

ることしかできませんが、早く自分なりの方法で日本語を教えられるようにいます。

(飯田 修)



火曜日 初級クラス授業

#### 親子でスイーツ)」 親子の協働が笑顔をつくりだす

7月最後の日曜日、京都 YWCA には甘い香りが広がり ました。親子10組限定で行った「親子でスイーツ♪」は、 夏にぴったりのつめたいお菓子と混ぜて焼くだけのおやつ 作りワークショップです。講師には、基本を大切に家庭で も簡単においしいお菓子作りができる教室 「MAISONDEAYAKO」主宰の辻出綾子さんをお迎えし ました。

今回はりんごムースとマドレーヌに挑戦します。辻出さ んはご自身も小学生のお母さんです。子どもが自分で作業 できるように、全ての材料は計量ずみ、手順ごとに必要な 道具は材料と一緒にトレイに載せられています。辻出さん が実際の動きを見せながら、子どもたち一人ひとりに「こ れでいいよ!」「もう少し混ぜてみようか」と優しい笑顔 と共にアドバイスを届けてくださっていました。

工程はふるう、混ぜるといったシンプルなものでしたが、 道具を使うことだけでなく、バターと粉をすりまぜたり、 水に浸しプルプルになった板ゼラチンをジュース液に入れ て溶かしたり、さまざまな感覚を手で感じる機会でもあり

ました。子どもたちは小さなパティシエになって、集中し て手を動かしていましたが、傍らには大人がいて、迷った 時、むずかしい時にはすぐに助けられるように見守ってい ました。

一つひとつの丁寧な作業を積み重ねて完成したのは本格 的なスイーツ!カリッとしたクランブルがのったフワフワ の生クリームの下には、ツヤツヤのぶどうを包んだ爽やか

な甘さのりんごのゼリーが隠れ ています。真ん中がぷっくり膨 らんだホカホカに焼きあがった マドレーヌは黄金色をしていま した。

丁寧な準備とあたたかな見守 りのもと、子どもたちは自分で 作ったおいしいものを手にして、 夏のお日様のように輝く笑顔を みせてくれました。



(別所加恵) 講師をお手本に手を動かします

### 100 周年の年の送り火――多世代・多文化で楽しみました!

心配していた台風7号が京都を去った8月16日、「大文 字送り火を楽しむ会」を数年ぶりに開催することができま した。今年は京都 YWCA100 周年記念実行委員会と若者 の居場所「YここKitchen」が協働して実施しました。参 加者には、会員やスタッフが準備した夕食を召し上がって いただいた後に、午後8時から本館屋上で送り火を鑑賞し てもらいました。真正面に見える東山の「大」の字や、遠 くに見える船形、左大文字が夜空にくっきりと美しく浮か んでいました。

一般参加者はもとより、京都 YWCA の高齢者住宅「サ ラーム」の居住者とその家族、自立援助ホーム「カルーナ」 利用者、就労支援を受ける若者、京都 YWCA あじさい寮 の留学生たちが参加し、文字通り「多世代・多文化」で京 都の伝統行事を楽しみました。

若者や留学生にとってお楽しみは何と言っても、浴衣を 着せてもらうサービスを受けることでした。浴衣について は、会員を含め何人かから提供を受け、着付けも数人のボ ランティアにお願いしました。着付けの得意なサラームの 居住者の方もその腕前を発揮されました。留学生の中には 自前の浴衣で、習った着付けにチャレンジする人もいまし た。留学生も若者も浴衣を着られることがとても楽しかっ たようです。

まもなく帰国する留学生たちにとって留学生活最後の良 い思い出になったと思われます。京都 YWCA の「大文字 送り火イベント」の新しい形を感じる一日となりました。

(上村兪巳子)



浴衣姿の留学生たち

#### 今後のプログラム

#### ◎京都 YWCA100 周年記念誌発行

創立 100 周年を記念して 100 周年記念誌『古都に咲いて 100 年』 を発行しました。

**■発 行:**9月

■編 集:京都 YWCA100 周年記念実行委員会記念誌チーム

■頒 価:1.000円

#### ◎ 100 周年記念式典

京都 YWCA 創立 100 周年を記念する式典を実施します。

■日 時:9月23日(土)12:00~14:00 ■場 所:京都ブライトンホテル慶祥雲の間

#### ○ 100 周年記念旅行

釧路 YWCA を訪問した後、北海道の景勝地などいくつかのスポッ トを訪ねます。

■日 時:10月6日(金)~10月9日(月)(3泊4日)

■内 容:釧路 YWCA 訪問および摩周湖、屈斜路湖、網走などを

#### ◎カフェ・フリーデン映画会

三上智恵監督 最新作『沖縄、再び戦場へ(仮)』

三上智恵監督のスピンオフ作品(約50分)の上映会を開催します。

■日 時:9月30日(土)14:00~16:00

■場 所:京都 YWCA

■参加費:500円、1000円(カンパ付き、カンパ代は本編制作に寄付)

■定 員:15名 ※ 9/28 または定員に達し次第締め切り

#### ○京都 YWCA プチマルシェ

「地球にやさしい人とものをつなぐプチマルシェ」をコンセプト に、多彩な出店があります。皆さまの来場をお待ちしています。

■日 時:10月28日(土)11:00~14:00

■場 所:京都 YWCA

**■入 場:**無料、どなたでもご来場ください。

#### お詫びと訂正

5月号「洛楽」の記事に誤りがありました。お詫びして訂正い たします。

ロゴキャプションについて

(誤) 2013年1月に元『洛楽』講師が案を出してロゴを作成しました

(正) 2023年1月に現『洛楽』講師が案を出してロゴを作成しました

#### サマリア館補修募金 クラウドファンディングへの ご協力のお願い



京都 YWCA は本年、創立 100 周年を迎えました。 W.M. ヴォー リズが設計に関わった京都 YWCA のサマリア館は、現在京都 YWCA が進める「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」 事業の大切な場として、日々利用されております。1936年に建 てられた建物は築87年を迎えて補修が必要になっており、7月 後半から9月半ばまで工事を行っています。

100周年記念募金の一環として、7月10日よりサマリア館補 修のためのクラウドファンディングを開始しています。皆様の ご協力を心よりお願い申し上げます。

実施期間: 2023 年 7 月 10 日~ 9 月 30 日

日 標 額:150万円

本プロジェクトについて。ご寄付は下記 URL または QR コードから

https://congrant.com/project/kyotoywca/7472 ※ご寄付は事務所窓口でも受け付けております。



#### ご協力ありがとうございました

2023年6月1日から7月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

#### 各指定寄付

\*法人支援

筒井奈都子、匿名

#### \* 100 周年記念募金

山本信夫、山本奈美、一色光世、 橘まゆみ、有田孝子、吉村富式、 手島千景、松田千治、西森頼子、 大窪誠司、中川愛子、坪野えり子、 中村美智子、山本茂代、中川美佳子、 丸本準子、吉田亜希、小林聡、 篠田茜、松山 YWCA、匿名 ※クラウドファンディングにご協力いただい た方は終了後に掲載させていただ きます。

#### \*多文化共生委員会

#### \* APT

筒井奈都子、有田孝子、安藤いづみ、 仲本直子、林律、飯田奈美子、 清水弥生、リンパヤラヤ・スプラーニー、 北垣由民子、大窪誠司、西田敦志、 西田苗緒、匿名

\*自立援助ホーム「カルーナ」

弘中奈都子、有田孝子、神門佐千子、 イエニックふたみ、吉村富式、吉川文一、 井上里佳、石田裕明、松岡由香子、 大窪誠司、宮川道子、鶴崎祥子、 伊東真喜子、坪野えり子、竹岡哲朗、 荒垣加津子、山上義人、大山悠子、 半田淳子、齋藤洋子、小林裕彦、 有田佳子、田中君枝、中野かおり、 定本ゆきこ、西村由里、長塩滋子、 小泉小枝、匿名

#### \* 賛助費

髙島照子、窪田左知己、上村剛士、 長谷邦彦、中川愛子、佐野千枝子、 奥村孝、中村美智子、白根睦久、 飯田修、同志社中学校かるちゃんぷる 半田淳子、出店都、中村和雄、 日月公子、吉田繁、小林聡、 上内鏡子、㈱田中工務店

#### 7.8月/理事会報告

- 7月 24 日よりサマリア館補修工事を実施(9月 16日までを予定)
- ●「持続可能な運営のための組織再検討チーム」を立ち上げた。
- 7/10:サマリア館補修のためのクラウドファンディング第 2 弾を 開始(目標額150万円)
- 7/30:「親子でスイーツ♪」実施(本誌3ページ参照)
- 8/2:自立援助ホーム「カルーナ」トラウマ・インフォームドケア 連続講座(全6回)開始
- 8/18: 小学生対象夏のプログラム「ガジュマルの樹」実施

KYOTO YWCA No.576 2023年9月号(9月1日発行)

発行人:上村兪巳子 電 話:(075)431-0351 郵便振替:01080-9-1566 発行所:公益財団法人京都 YWCA FAX: (075) 431-0352 口座名義:(公財)京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通出水上ル近衛町44

e-mail: office@kyoto.ywca.or.jp : http://kyoto.ywca.or.jp

定 価:1部50円 発 行:奇数月1日発行